

□主な内容

【地域の交通環境対策推進者養成研修会(会津若松市)参加者募集中！】

9月24日(火)～26日(木)の3日間、EST交通環境大賞を受賞した会津若松市で地域の交通環境対策推進者養成研修会を開催します。皆様からのご参加をお待ちしています！

<http://www.estfukyu.jp/training2019.html>

【全国のカーシェアリング実施規模について調査結果を公表！】

エコモ財団は、毎年実施している全国のカーシェアリング実施規模について調査し、結果を公表しました。

[http://www.ecomo.or.jp/environment/carshare/carshare\\_graph2019.3.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/carshare/carshare_graph2019.3.html)

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第156回)

●「ESTからTSDへ」

【名古屋大学モビリティ社会研究所 教授 森川 高行】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第156回)

●「環境にやさしい小豆島の持続可能な公共交通再生への挑戦」

【小豆島地域公共交通協議会】(事務局:土庄町企画課)

3. ニュース／トピックス

●「平成30年度交通の動向」及び「令和元年度交通施策」(交通政策白書)【国土交通省】

●令和元年、地域交通におけるさらなる連携・協働とイノベーションに向けて～「地域交通フォローアップ・イノベーション検討会」の提言を取りまとめました～【国土交通省】

●「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりに取り組みませんか？～まちなかを車中心からひと中心へ。チャレンジする自治体を募集します～【国土交通省】

●全国各地で環境に優しい電気バスが一層導入されます！～電気バス、燃料電池タクシーを活用する8事業を「地域交通グリーン化事業」による補助対象事業として支援を決定～【国土交通省】

●ラストマイル自動運転の実証実験について 中型自動運転バス実証実験事業を行う交通事業者公募を開始します【国土交通省】

- グリスロで脱炭素化と地域の交通課題の解決を！ ～IoT 技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業の地域決定～【国土交通省】
- グリーンスローモビリティの車両導入を支援します！ ～平成 31 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業のうち、グリーンスローモビリティを活用した脱炭素型地域交通モデル構築支援事業)の公募について～【国土交通省】
- 平成 31 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業のうち、地域再エネ等の活用による持続可能な自立・分散型地域エネルギーシステムや脱炭素型地域交通モデルの構築支援事業)の公募開始について【環境省】
- 2019 年度(平成 31 年度)IoT 技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業の採択案件について【環境省】
- 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰パンフレットを作成しました【国土交通省】
- 平成 30 年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者を募集します【経済産業省、国土交通省】
- 「乗用車の新たな燃費基準に関する報告書」の公表【国土交通省】
- 「2100 年 未来の天気予報」(新作版)の公開について【環境省】
- 中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス 常陸太田市における自動運転サービスの長期実証実験を開始 ～全国で初めて自動運転車と路線バスの連携による運行システムの検証～【国土交通省】
- 関東スムーズビズ 2019 チャレンジ！ ～2020 オリパラに向けた夏のTDMの試行～【関東地方整備局、関東運輸局】
- “地域間幹線バスが地域で役立つようにするために”リーフレットを公表 ～利用者増加による生産性向上を目指して～【中部運輸局】
- バス運行体制の一体化を柱とする路線網再編の取組みが国土交通大臣表彰を受賞 ～「令和元年地域公共交通優良団体大臣表彰」について(長崎県佐世保市)～【九州運輸局】
- わが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移【エコモ財団】
- 「モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)」の募集について【日本物流団体連合会】
- 鉄道の混雑緩和等に向けた「2019 年度オフピーク通勤」を実施します【川崎市】
- 「三宮クロススクエア」の整備に向けて大規模な交通社会実験を実施【神戸市】
- eco オフィスマつもと認定事業所を募集します【松本市】
- 都営交通の運行情報等をオープンデータとして提供開始します【東京都】
- 『新たなモビリティサービスによる「まち」づくり協議会』(MaaS 協議会)を設立【さいたま市】
- エコドライブ講習を受講しませんか？【兵庫県】
- 7 自治体連携による「次世代モビリティ都市間ネットワーク」の設立について【豊田市】

- 千葉市と日本電信電話株式会社が包括連携協定を締結 ～スマート&ナチュラルな未来のまちづくりに向けて～【千葉市、NTT】
- 社用車を効率的に共同使用するための法人向けサービス「MONET Biz」の提供に向けた実証実験を8月から実施 ～従業員の移動時間の短縮と有効活用を可能にし、企業の働き方改革を支援～【MONET】
- 「東京モーターショー」などに出品したフロント2輪の小型電動立ち乗りモビリティ「TRITOWN」を使った公園ガイドツアーによる実証実験【ヤマハ発動機株式会社】
- ブラジル リオデジャネイロ近郊鉄道運営事業へのJOINによる支援を認可 ～リオデジャネイロ近郊における質の高い公共交通サービスの提供を支援します～【国土交通省】
- 第10回クリーンエネルギー大臣会合参加国、水素燃料電池の導入を進める国際パートナーシップを締結【アメリカ合衆国 エネルギー省】

#### 4. イベント情報

- 第9回地域の交通環境対策推進者養成研修会(会津若松) ～ICTの活用を目指した持続的に支えあう交通づくり～【2019/9/24-26】
- 第10回土木と学校教育フォーラム【2019/7/29】
- 地方公共団体による空の移動革命に向けた構想発表会【2019/8/2】
- 第6回地域公共交通総合研究所シンポジウム in 熊本【2019/8/9】
- ロハスフェスタ【2019/8/10-12、2019/9/14-16、2019/10/12-14、2019/11/1-5】
- 第27回 地球環境シンポジウム【2019/8/27-29】
- 日本不動産学会シンポジウム「コンパクトシティの行方 ～都市の消失をとめられるのか・様々な視点から見たコンパクトシティ～」【2019/9/20】
- 京都スマートシティエキスポ 2019【2019/9/5、2019/9/24、2019/10/3-4】
- 第26回 ITS 世界会議シンガポール 2019【2019/10/21-25】
- くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2019【2019/10/26-27】
- エコプロ 2019 ～持続可能な社会の実現に向けて～【2019/12/5-7】
- 第17回 ITS シンポジウム 2019【2019/12/12-13】
- 第17回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン 2020【2020/5/25-28】

#### 5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

---

---

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 156 回)

●「EST から TSD へ」

【名古屋大学モビリティ社会研究所 教授 森川高行】

2015 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 17 の目標、すなわち「持続可能な開発目標(SDGs)」がいろいろな場面で意識されるようになってきました。それまで、持続可能な開発(Sustainable Development)は、環境・エネルギー問題の解決を指すことが多かったのですが、今回の SDGs は「地球上の誰一人取り残さない」という包摂性が一番の特徴になっています。

一方、本サイトで推進している EST(Environmentally Sustainable Transport)は、「環境的に」持続可能な交通を目指しています。一つの提案として、EST 活動もより広い意味での持続可能性を目指し、SDGs の特徴である、包摂性、参画型(すべてのステークホルダーが役割を持つ)、統合性(社会・経済・環境に統合的に取り組む)を取り込んで、TSD(Transport for Sustainable Development、持続可能な開発のための交通)に向かって展開していったらどうでしょうか。

例えば、これまでの EST という「自動車から公共交通や自転車へ」という単純な図式がまぎれなく浮かんでいきます。ところが現在の日本の大きな交通問題は、公共交通にも自転車にも乗れない高齢者などの移動や社会参加をどうするかということにあります。また、バスやタクシーの運転手不足も深刻です。ここで今後救世主になってくれそうなのが、現在起こりつつある、モビリティにおける CASE(Connected, Autonomous, Servitized, Electric)革命、とくに自動運転の活用です。自動車の環境負荷も今後の電動化でかなり小さくなると思われます。小型の電動ロボタクシーが普及すれば、高齢者のような交通弱者を「取り残す」ことは無くなるでしょう。また、ビジネス的に成り立ちにくい地区でのモビリティ確保には、参加型や統合型のアプローチがますます重要になると考えられます。

言葉にはこだわりませんが、本サイトの読者に方々にも EST を発展させた TSD 的な考え方が広がることを期待しています。

---

## 2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 156 回)

### ●「環境にやさしい小豆島の持続可能な公共交通再生への挑戦」

【小豆島地域公共交通協議会】

(事務局:土庄町企画課)

小豆島は、瀬戸内海の東部に位置し、土庄町及び小豆島町の 2 つの行政区からなる面積約 170km<sup>2</sup>、人口約 27,000 人の島で、豊かな自然を有し、年間約 110 万人の観光客が訪れる観光地です。素麺、醤油などの歴史ある産業のほか、ゴマ油やオリーブ関連事業も活発であるとともに、近年では瀬戸内国際芸術祭の開催によるアートの島として、新たな魅力の発信に努めていますが、全国的な少子高齢化の流れはこの島でももちろん例外ではなく、高齢化率が 40%を超え、生産年齢人口の維持確保は大きな課題となっています。

小豆島では、島内唯一の路線バス会社が平成 21 年 11 月に 2 町及び民間企業を含む島民出資により設立されましたが、人口減少に加え車社会の浸透、高額運賃等による利用者の減少により存続が危ぶまれる状況でした。

このような中、平成 26 年度に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正された当時、小豆島では人口減少の影響を受けた医療、教育体制の立て直しのため、病院、高校の再編が進められ、拠点施設の配置とともに生活環境が大きく変化する時期を迎えていました。これを好機と捉え、「小豆島地域公共交通協議会」を組織し、島民の足の確保ため、新しい病院、新しい高校に運ぶことを軸としてネットワークの再編に取り組みました。

また、運賃の大幅な値下げを行うことで、以前から 2 町で実施していた運転免許証自主返納支援制度がより活用され、再編したバス路線の利用促進、高齢化社会対策として効果が発揮されることとなったとともに、再編後に開始した高校生への通学定期補助制度は、バス通学による増収はもちろん交通事故リスクの低減が図られることにもつながりました。

これまで交通分野、医療分野、教育分野などで存在していた課題に対し、ネットワークの再編は、患者数が減少していた病院の受診者数の増加なども確認され、様々な効果を生み出すことがわかってきました。今後も島民の方とともに、利便性の向上、周遊性の確保を図り、持続可能な公共交通の実現を目指して取り組んでまいります。

---

### 3. ニュース／トピックス

#### ●「平成 30 年度交通の動向」及び「令和元年度交通施策」(交通政策白書)【国土交通省】

令和元年版の交通政策白書が 6 月 25 日に閣議決定されました。交通の動向や交通に関する施策を紹介するほか、「モビリティ革命～移動が変わる、変革元年～」をテーマとして取り上げています。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo22\\_hh\\_000017.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo22_hh_000017.html)

#### ●令和元年、地域交通におけるさらなる連携・協働とイノベーションに向けて ～「地域交通フォローアップ・イノベーション検討会」の提言を取りまとめました～【国土交通省】

国土交通省では、「あらゆる地域で、あらゆる人々が、自らの運転だけでなくニーズに対応した移動サービスを楽しむ社会」を実現するため、有識者からなる検討会を開催し、地域公共交通に関する計画制度の実効性強化等の制度見直しの方向性について、提言を取りまとめました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12\\_hh\\_000151.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000151.html)

#### ●「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりに取り組みませんか？ ～まちなかを車中心からひと中心へ。チャレンジする自治体を募集します～【国土交通省】

世界の多くの都市で、まちなかを車中心からひと中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと改変する取組が進められています。これらの取組は、ひと中心の豊かな生活空間を実現させるだけでなく、地域消費や投資の拡大、観光客の増加や健康寿命の延伸、孤独・孤立の防止ほか、様々な地域課題の解決や新たな価値の創造につながります。

国土交通省は、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、国内外の先進事例などの情報共有や、政策づくりに向けた国と地方とのプラットフォームに参加し、ウォーカブルなまちづくりを共に推進する「ウォーカブル推進都市」を募集します。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09\\_hh\\_000052.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000052.html)

#### ●全国各地で環境に優しい電気バスが一層導入されます！ ～電気バス、燃料電池タクシーを活用する 8 事業を「地域交通グリーン化事業」による補助対象事業として支援を決定～【国土交通省】

環境に優しい交通サービスの普及を促進するため、国土交通省では、「地域交通グリーン化事業」による補助対象事業として、新たに 8 事業への支援を決定しました。これにより、新たに電気バス 10 台と燃料電池タクシー 2 台が導入されます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10\\_hh\\_000219.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000219.html)

●ラストマイル自動運転の実証実験について 中型自動運転バス実証実験事業を行う交通事業者公募を開始します【国土交通省】

自動車の自動運転については、交通事故の削減や高齢者の移動手段の確保等に資するものとして、政府としては、2020年までの限定地域での無人自動運転移動サービスの実現等の目標を掲げています。この目標に向け、国土交通省・経済産業省が連携して実施しているラストマイル自動運転の実証実験について、中型自動運転バス公道実証実験事業(2019年度-2020年度)の一環として、中型自動運転バス実証実験を行う交通事業者を公募を開始しました。公募期間は8月23日までです。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07\\_hh\\_000309.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000309.html)

●グリスロで脱炭素化と地域の交通課題の解決を！ ～IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業の地域決定～【国土交通省】

環境への負荷が少なく、狭い路地も通行可能で、高齢者の足の確保や観光客の周遊に資する新たなモビリティとして期待されているグリーンスローモビリティの地域での活用に向け、IoT技術等と組み合わせた活用方法の効果・事業性を実証する事業を環境省と国交省が連携して行います。このたび、実証事業を行う7地域を採択しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10\\_hh\\_000192.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000192.html)

●グリーンスローモビリティの車両導入を支援します！ ～平成31年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業のうち、グリーンスローモビリティを活用した脱炭素型地域交通モデル構築支援事業)の公募について～【国土交通省】

環境への負荷が少なく、狭い路地も通行可能で、高齢者の足の確保や観光客の周遊に資する新たなモビリティとして期待されているグリーンスローモビリティの車両導入補助について、執行団体である(一社)低炭素社会創出促進協会が公募を7月31日まで行っています。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10\\_hh\\_000194.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000194.html)

●平成31年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業のうち、地域再エネ等の活用による持続可能な自立・分散型地域エネルギーシステムや脱炭素型地域交通モデルの構築支援事業)の公募開始について【環境省】

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の執行団体である一般社団法人低炭素社会創出促進協会が、2050年温室効果ガス総排出量80%削減の長期目標を達成させるために補助事業の公募を開始します。補助事業には、脱炭素型地域交通モデル構築事業(電気自動車等を活用する事業及びグリーンスローモビリティを活用する事業)が含まれます。公募実施期間は7月31日までです。

<http://www.env.go.jp/press/106983.html>



●2019年度(平成31年度)IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業の採択案件について【環境省】

2019年度(平成31年度)IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業につきまして公募のあった事業のうち、審査の結果、7件を採択することとしました。採択となった事業については、秋頃を目処に実証を開始する予定です。

<http://www.env.go.jp/press/106937.html>

●交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰パンフレットを作成しました【国土交通省】

国土交通省では、環境保全に関する取組みに顕著な功績があった事業者、事業所、団体に対して表彰を行う「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を、平成18年度より実施しています。該当する活動を行い、他と比べて著しく顕著な功績のあった事業者等について、地方運輸局等の推薦に基づき、有識者で構成する委員会での選考等を経て決定しています。

このたび、「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰パンフレット」を作成しました。

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei\\_environment\\_tk\\_000014.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000014.html)

●平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者を募集します【経済産業省、国土交通省】

経済産業省・国土交通省では、物流分野における環境負荷低減、物流の生産性向上等持続可能な物流体系の構築に関し、特に顕著な功績のあった事業者に対して、大臣表彰・局長級表彰を行うため、8月21日(火)まで優良事業の募集をしています。

<https://www.meti.go.jp/press/2018/07/20180702006/20180702006.html>

●「乗用車の新たな燃費基準に関する報告書」の公表【国土交通省】

国土交通省及び経済産業省が設置した燃費規制に関する審議会において、2018年3月より検討してきた「エネルギーの使用の合理化等に関する法律(昭和54年法律第49号)」に基づく乗用車の新たな燃費基準について、6月3日に審議会が開催されました。審議会では、2030年度を目標とする新たな燃費基準についての「報告書(案)」が示され、これに対して委員から意見が述べられました。このたび、それらの意見を踏まえて修正したものについて、各委員の承認が得られ、審議会としての最終的な報告書を公表しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10\\_hh\\_000217.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000217.html)

●「2100年 未来の天気予報」(新作版)の公開について【環境省】

「2100年 未来の天気予報」(新作版)について、公開いたしました。地球温暖化対策による影響等を天気予報という形式でわかりやすくお伝えします。個人での視聴はもちろん、イベントや授業、研修など様々な場面で利用することができます。



<http://www.env.go.jp/press/107008.html>

●中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス 常陸太田市における自動運転サービスの長期実証実験を開始 ～全国で初めて自動運転車と路線バスの連携による運行システムの検証～【国土交通省】

茨城県常陸太田市の高倉地域交流センターを拠点として、地域の足の確保や高速バスの貨客混載事業との連携等の検証を目的に、自動運転車と路線バスが連携した運行システムの検証等を行うため、6月23日(日)から長期の実験(29日間)を実施しました。

高齢化が課題が特に顕著である山間部の高倉地区において、自動運転に対応した道路空間のあり方や、路線バスと連携した運行管理・予約システム等の検証を行いました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_001175.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001175.html)

●関東スムーズビズ 2019 チャレンジ！ ～2020 オリパラに向けた夏のTDMの試行～【関東地方整備局、関東運輸局】

関東地方整備局並びに関東運輸局では、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会における交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント(TDM)について、今年の夏の試行として、「関東スムーズビズ 2019 チャレンジ」を実施します。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1907/0710/gs\\_p190709.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1907/0710/gs_p190709.pdf)

●“地域間幹線バスが地域で役立つようにするために”リーフレットを公表～利用者増加による生産性向上を目指して～【中部運輸局】

中部運輸局では、路線バス事業の生産性の向上を目指し、単なる利用促進ではなく、より効果の見込まれる施策の実施やデータに基づいた路線見直しが必要であることなどを検討してきました。また、関係者のそうした取組を促すため、乗合バス事業の生産性向上のための基本的な考え方や生産性向上につながる取組について、好事例も交えリーフレットを作成し、ホームページに公表しました。

今回作成した路線バスの生産性向上を目指したリーフレットの公表をはじめとし、公共交通会議などの場を活かして、地域に最適で持続可能なネットワークとしての交通体系の議論がより活発化され、地域公共交通の確保が図られるよう、今後も取組を進めます。

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/kousei2019062602.pdf>

●バス運行体制の一体化を柱とする路線網再編の取組みが国土交通大臣表彰を受賞～「令和元年地域公共交通優良団体大臣表彰」について(長崎県佐世保市)～【九州運輸局】

地域公共交通に関する取組みに顕著な功績があったとして、佐世保市地域公共交通活性化協議会が、令和元年7月11日付けで国土交通大臣から表彰されることとなりました。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/00001\\_00157.html](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/00001_00157.html)

●わが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移【エコモ財団】

エコモ財団による2019年3月の調査では、わが国のカーシェアリング車両ステーション数17,245カ所(前年比15.4%増)、車両台数は34,984台(同19.8%増)、会員数は1,626,618人(同23.2%増)と、引き続き増加するとともに、会員数は160万人を超えました。

[http://www.ecomo.or.jp/environment/carshare/carshare\\_top.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/carshare/carshare_top.html)

●「モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)」の募集について【日本物流団体連合会】

一般社団法人日本物流団体連合会は、昨年度制定「モーダルシフト優良事業者公表・表彰制度」について今年度も公募いたします。これは、モーダルシフト促進に関し、物流事業者の自主的な取り組みの推奨や、意識の高揚を図るため、今年度も広く社会に発信していくことを目指すものです。募集締切は9月30日で、11月には表彰式典を執り行う予定です。

<http://www.butsuryu.or.jp/public/shift>

●鉄道の混雑緩和等に向けた「2019年度オフピーク通勤」を実施します【川崎市】

川崎市では、鉄道混雑緩和のさらなる推進に加え、働き方・仕事の進め方改革の一環となるワークライフバランスの一層の向上等に向けて、東京都による「スムーズビズ」とも連携しながら、昨年度に引き続き、「2019年度オフピーク通勤」を実施します。

今年度は、7月22日から東京2020オリンピック・パラリンピックの開催日程を見据えた「集中取組期間」を設定し、7月24日には「超！重点チャレンジデー！」を実施しました。

<http://www.city.kawasaki.jp/templates/press/cmsfiles/contents/0000107/107891/houdouhappyou190621.pdf>

●「三宮クロススクエア」の整備に向けて大規模な交通社会実験を実施【神戸市】

神戸市では、平成27年9月に策定した、三宮周辺地区の『再整備基本構想』において、三宮にある6つの駅と周辺のまちを一体的につなぎ、交通拠点としての機能や回遊性を高める空間「えきまち空間」を整備することとしています。その核となるのが、税関線(フラワーロード)と中央幹線の一部を、人と公共交通優先の空間とする「三宮クロススクエア」であり、快適で利便性が高く、美しい景観が備わり様々な市民活動や交流が展開される神戸の玄関口にふさわしい空間を創出します。

7月1日から31日まで、「三宮クロススクエア」の整備に向けた第一歩として、三宮交差点から中央区役所前交差点において、整備の第1段階を再現した10車線(最大)から6車線への交通規制を行う交通社会実験を行っています。この社会実験では、規制区間及び周辺の主要交差点において交通量調査等を実施し、自動車交通への影響などについて検証を行ったうえで、設計に反映させていきます。

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2019/06/20190613162001.html>

●eco オフィスマつもと認定事業所を募集します【松本市】

松本市環境基本計画を事業所の立場から推進するとともに、事業所から排出されるごみの減量化を目指し、省エネや節電、ごみの減量化やエコ通勤など環境に配慮した取組みを行っている事業所を、市が「eco オフィスマつもと」として認定します。

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/jigyosya/oshirase/eco-office.html>

●都営交通の運行情報等をオープンデータとして提供開始します【東京都】

東京都では、行政が保有するデータを、機械判読可能な形式、二次利用可能なルールにより公開することで、行政の透明性や住民サービスの向上等を目指すオープンデータの取組を推進しています。この取組は、新たな社会「Society5.0」の実現に向け、官民が連携してデータ利活用を推進していく施策の一つです。

交通局では、公共交通オープンデータ協議会が運営する「公共交通オープンデータセンター」を通じて、都営交通のデータを提供します。これにより、乗換を案内するアプリ等の開発者は、最新の都営交通のデータを使って様々なアプリケーションやサービスを構築することが可能になります。

[https://www.kotsu.metro.tokyo.jp/pickup\\_information/news/subway/2019/sub\\_p\\_201905318600\\_h.html](https://www.kotsu.metro.tokyo.jp/pickup_information/news/subway/2019/sub_p_201905318600_h.html)

●『新たなモビリティサービスによる「まち」づくり協議会』（MaaS 協議会）を設立【さいたま市】

さいたま市と草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市及び松伏町が相互に協力・連携して、広域的な新たなモビリティサービスの導入を目指し、社会的課題の解決のため MaaSなどを社会インフラとするまちづくりを検討することを目的に協議会を設立しました。

<https://www.city.saitama.jp/006/014/008/003/008/003/p065578.html>

●エコドライブ講習を受講しませんか？【兵庫県】

自動車等の運輸部門からの温室効果ガス排出量は、エコカーの普及等により近年減少傾向にあるものの、兵庫県の排出量の1割以上を占めています。

「兵庫県地球温暖化対策推進計画」では、運輸部門からの排出量を2030年度に2013年度比で約3割削減する目標を掲げており、目標達成のためには環境負荷の軽減に配慮した運転(エコドライブ)をドライバー1人1人が実践することが求められます。

このため、(公財)ひょうご環境創造協会は県内の自動車教習所と連携して、事業所の社員・職員を対象としたエコドライブ講習(受講費無料)を開催します。

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk24/ecodrive.html>

●7 自治体連携による「次世代モビリティ都市間ネットワーク」の設立について【豊田市】

豊田市は、女川町(宮城県)、南三陸町(宮城県)、つくば市(茨城県)、出雲市(島根県)、久米島町(沖縄県)と、次世代モビリティに関する横断的な自治体間連携を行うための

「次世代モビリティ都市間ネットワーク」を設立します。参加自治体間で、次世代モビリティに関する意見交換や課題の共有化、規制緩和に向けた共同事業などを実施し、次世代モビリティの更なる普及促進を通じて、誰もが自由に移動できる社会づくりを目指します。

<https://www.city.toyota.aichi.jp/pressrelease/1032124/1032159.html>

●千葉市と日本電信電話株式会社が包括連携協定を締結 ～スマート&ナチュラルな未来のまちづくりに向けて～【千葉市、NTT】

2年後の2021年に、千葉市は市制100周年を迎えるとともに、これからの100年のまちづくりに向けた一歩を踏み出します。その大きな節目の年を前にして、テクノロジーの活用による未来のまちづくりに向けた連携・協力について、千葉市及び日本電信電話株式会社で合意したことから、包括連携協定を令和元年7月11日に締結しました。

連携イメージには、MaaS等により日常生活での移動利便性向上やモバイルの人流等データ活用による、市民の新たな移動手段も含まれます。

<http://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/sogoseisaku/kikaku/ntt-kyotei.html>

●社用車を効率的に共同使用するための法人向けサービス「MONET Biz」の提供に向けた実証実験を8月から実施 ～従業員の移動時間の短縮と有効活用を可能にし、企業の働き方改革を支援～【MONET】

MONET Technologies 株式会社は、社用車を複数の企業で効率的に共同使用するための法人向けサービス「MONET Biz(モネビズ)」の提供に向けた実証実験を、2019年8月1日から実施します。

「MONET Biz」は、社用車を共同使用する法人向けに、オフィスや主要駅間などの移動を効率化するオンデマンドシステムや、快適な車内空間などを提供するサービスです。これにより、従業員の移動時間の短縮を図るとともに、移動時間を業務などに活用できるようにすることで、残業時間の削減をはじめとする企業の働き方改革を支援します。

[https://www.monet-technologies.com/news/press/2019/20190718\\_01/](https://www.monet-technologies.com/news/press/2019/20190718_01/)

●「東京モーターショー」などに出品したフロント2輪の小型電動立ち乗りモビリティ「TRITOWN」を使った公園ガイドツアーによる実証実験【ヤマハ発動機株式会社】

ヤマハ発動機(株)は、7月13日～8月11日の週末を中心に、新潟県長岡市の「国営越後丘陵公園」にて、フロント2輪の小型電動立ち乗りモビリティ「TRITOWN(トリタウン)」の実証実験を行っています。「TRITOWN」は、LMW機構を備えたフロント2輪の小型電動立ち乗りモビリティです。ライダー自身のバランスコントロールによって姿勢制御を行うシンプルな機構で、ラストワンマイルの移動をワクワク楽しい時間にします。「東京モーターショー2017」「CES 2019」に参考出品しました。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/news/2019/0703/tritown.html>

●ブラジル リオデジャネイロ近郊鉄道運営事業への JOIN による支援を認可 ～リオデジャネイロ近郊における質の高い公共交通サービスの提供を支援します～【国土交通省】

国土交通大臣は、平成 31 年 2 月 27 日、(株)海外交通・都市開発事業支援機構 (JOIN) が、ブラジルにおけるリオデジャネイロ近郊鉄道運営事業への出資(約 43 億円)を行うことについて認可し、5 月 31 日、JOIN より、我が国の企業が設立した特別目的会社(ガラナ・アーバン・モビリティ株式会社: GUMI)に対し資金拠出が行われました。

今回の支援により、本事業の経営基盤の強化が図られ、我が国の鉄道運営に関するノウハウを活用した、より質の高い公共交通サービスが提供されることで、リオデジャネイロ近郊における慢性的な交通渋滞の解消等に寄与することが期待されます。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo05\\_hh\\_000205.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo05_hh_000205.html)

●第 10 回クリーンエネルギー大臣会合参加国、水素燃料電池の導入を進める国際パートナーシップを締結【アメリカ合衆国 エネルギー省】

アメリカエネルギー省(DOE)によると、カナダのバンクーバーで開催された第 10 回クリーンエネルギー大臣会合(CEM10)で、水素燃料電池技術の研究開発と商用化を促進する国際パートナーシップが立ち上げられました。これは、2018 年に日本で開催された水素閣僚会議の勧告を踏まえ、クリーンエネルギーへの世界規模の移行で水素がもたらす機会と課題に対処し、全経済領域で水素燃料電池技術の導入を加速するため政策、計画、事業で国際的に連携するものです。初期の取り組みとして、1)現在の産業用途の範囲内での水素導入の成功の確保、2)輸送における水素技術の導入の実現、3)地域社会のエネルギー需要に応える水素の役割の探求、の 3 領域が示されました。アメリカ、カナダ、日本、オランダ、欧州委員会が主導し、国際エネルギー機関(IEA)が調整役を担います。官民の専門性と投資を活用し、水素協議会などの業界団体にも協力を求める予定です。

<https://www.energy.gov/articles/us-canada-japan-netherlands-and-european-commission-launch-new-hydrogen-initiative-under>



---

#### 4. イベント情報

- 第9回地域の交通環境対策推進者養成研修会(会津若松市) ~ICTの活用を目指した持続的に支えあう交通づくり~

日時:2019年9月24日(火)~26日(木)

場所:ICT オフィスビル「スマートシティ AiCT」など

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団、国土交通省東北運輸局

<http://www.estfukyu.jp/training2019.html>

- 第10回土木と学校教育フォーラム

日時:2018年7月29日(日)9:00~17:00(受付8:45~).

場所:土木学会(講堂、A,B 会議室).

主催:(公社)土木学会教育企画・人材育成委員会「土木と学校教育会議」検討小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/education04/node/40>

- 地方公共団体による空の移動革命に向けた構想発表会

日時:2019年8月2日(金)17:30~18:30

場所:虎ノ門ヒルズ4階ホールB

主催:国土交通省、経済産業省

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku02\\_hh\\_000134.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku02_hh_000134.html)

- 第6回地域公共交通総合研究所シンポジウム in 熊本 ~令和の地域モビリティをいかにつづけていくか?~

日時:2019年8月9日(金)13:30~17:00

場所:熊本国際交流会館 大ホール

主催:(一財)地域公共交通総合研究所

[http://chikoken.org/pdf/simpo2019/simpo\\_0616.pdf](http://chikoken.org/pdf/simpo2019/simpo_0616.pdf)

- ロハスフェスタ

日時・場所:2019年8月10日(土)~12日(月・祝) 南港:インテックス大阪 1・2号館

2019年9月14日(土)~16日(月・祝) 東京:光が丘公園 芝生の広場

2019年10月12日(土)~14日(月・祝) 淡路島:淡路島夢舞台 国営明石海峡公園 芝生広場

2019年11月1日(金)~5日(火),15日(金)~17日(日) 万博:万博記念公園 東の広場

主催:ロハスフェスタ実行委員会

<http://event.lohasfesta.jp/>

●第27回 地球環境シンポジウム

日時:2019年8月27(火)~29(木)

場所:富山国際会議場 大手町フォーラム

主催:(公社)土木学会

<http://committees.jsce.or.jp/global/node/51>

●日本不動産学会シンポジウム「コンパクトシティの行方 ～都市の消失をとめられるのか・様々な視点から見たコンパクトシティ～」

日時:2019年9月20日(金)13:30~17:00

場所:すまいるホール

主催:(公社)日本不動産学会

[http://www.jares.or.jp/events/2019.09.20\\_sympo.html](http://www.jares.or.jp/events/2019.09.20_sympo.html)

●京都スマートシティエキスポ 2019

日時・場所:2019年9月5日(木)13:00~17:10:京都大学

2019年9月24日(火)13:00~18:30:京都産業会館ホール

2019年10月3日(木)~4日(金)10:00~17:00:けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)、国際高等研究所、けいはんなプラザ

主催:京都スマートシティエキスポ運営協議会

<http://expo.smartcity.kyoto/>

●第26回 ITS 世界会議シンガポール 2019

日時:2019年10月21日(月)~25日(金)

場所:Suntec Singapore Convention and Exhibition Centre

主催:Land Transport Authority, ITS Singapore

[http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid\\_100/singapore\\_2019/](http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/singapore_2019/)

●くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2019

日時:2019年10月26日(土)~27日(日)

場所:東洋大学白山キャンパス

主催:くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会

<https://zenkokuforum.jimdo.com/>

●エコプロ 2019 ～持続可能な社会の実現に向けて～



日時:2019年12月5日(木)~7日(土)10:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 西・南ホール

主催:(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/eco2019/>

●第17回 ITS シンポジウム 2019

日時:2019年12月12日(木)~13日(金)

場所:石川県地場産業振興センター

主催:金沢大学、(特非)ITS Japan

[http://www.its-jp.org/event/its\\_symposium/17th2019/](http://www.its-jp.org/event/its_symposium/17th2019/)

●第17回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン 2020

日時:2020年5月25日(月)~28日(木)

場所:Brisbane Convention & Exhibition Centre QUEENSLAND

主催:ITS Australia

[http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid\\_110/katsudou2014tabid\\_110katsudou2014tabid\\_110ap\\_forum17/](http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_110/katsudou2014tabid_110katsudou2014tabid_110ap_forum17/)

---

## 5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

[http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters\\_top.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html)

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

[http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon\\_offset/carbonoffset\\_system.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html)

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

[http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev\\_top.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html)

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: [magazine@ecom.o.or.jp](mailto:magazine@ecom.o.or.jp)(担当:中道)

---

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail\\_ecomo](https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo)

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>